

一 ミサによる結婚式

用意するもの

- ・ ミサに必要な祭具一式
- ・ 聖書、聖歌集、会衆用式次第、指輪、聖水、灌水器、結婚証書など

開祭

50 入堂

入堂の方法は、たとえば次のような二つの形式を参考にして、状況に応じて工夫することが望ましい。

第一形式

51

司祭は定刻にミサ用祭服を着けて奉仕者とともに聖堂の入り口に行つて新郎新婦を迎え、あたたかいことをかけて、教会が彼らの喜びにあずかることを伝える。

52

続いて祭壇まで行列して進む。奉仕者が先頭に立ち、司祭、新郎新婦が続く。新郎新婦には、地域の習慣に従って、両親と二人の証人が、用意された席まで付き添うことができる。行列の間に入祭の歌を歌う。場合によっては、オルガン演奏に代えることもできる。

53

司祭は祭壇に近づき、深く一礼して祭壇に敬意を表した後、席に着く。

第二形式

54

司祭は定刻にミサ用祭服を着けて奉仕者とともに祭壇の前に行き、新郎新婦の入堂を待つ。

55

新郎新婦は祭壇まで進む。この間に入祭の歌を歌う。場合によっては、オルガン演奏に代えることもできる。新郎新婦が自分たちの席に来ると、司祭は彼らを迎え、あたたかいことばをかけて、教会が彼らの喜びにあずかることを伝える。

56

司祭は祭壇に近づき、深く一礼して祭壇に敬意を表した後、席に着く。

57

あいさつ

司祭は会衆とともに十字架のしるしをする。

司 父と子と聖霊のみ名によって。
一同 アーメン。

司祭と会衆は、次のいずれかのことばで互いにあいさつをかわす。

司 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。
一同 また司祭とともに。

または

司 主イエス・キリストによって、神である父からの恵みと平和が皆さんとともに。
一同 また司祭とともに。

または

司 主は皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

58

続いて挙式の心構えをさせるために、司祭はたとえば次のように一同に語る。

司 皆さん、わたしたちは喜びのうちに今日の日を迎え、○○○○さんと○○○○さん
を囲んで、主の家に集まっています。お二人はいま、新しい家庭をつくることを望
んでいます。この厳粛な時にあたり、ともに祈りをささげ、今日、神が語られるこ
とばをお二人とともに聞きましょう。そして、父である神がお二人を祝福し、いつ
までも一つにしてください。教会とともに、わたしたちの主・キリストをと
して願いまししょう。(沈黙)

または

司 ○○○○さん、○○○○さん、教会はご親族、ご友人の方々とともに、お二人の喜
びにあずかり、心からお祝い申しあげます。今日、わたしたちの父である神の前で、

集会祈願

司祭は次のいずれかの集会祈願を唱える。

回心の祈りは省略する。

お二人は生涯をともしにするきずなを結ばれます。このよき日に、神がお二人の愛を強め、豊かな恵みを注ぎ、守ってくださいますように。そして、神がお二人の願いをかなえ、祝福で満たしてくださいますように。(沈黙)

司
いつくしみ深い神よ、

あなたは、キリストと教会との一致の神秘を夫婦のきずなによって表し、その結びを尊いものとしてくださいました。

二人が、今日受ける秘跡の恵みを日々の生活に生かすことができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
人間を男と女に造り、その一致を望まれた神よ、

いま、結婚の誓いをかわす二人(〇〇〇〇と〇〇〇〇)を、

豊かな恵みで満たしてください。

二人の愛が実を結び、あなたの愛のあかしとなることができますように。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
いつくしみ深い神よ、

わたしたちの祈りを聞き入れ、

あなたの祭壇の前で結ばれる二人の愛が強められるよう、

豊かな恵みを注いでください。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
全能の神よ、

今日ここに結ばれる二人(〇〇〇〇と〇〇〇〇)が、

あなたに対する信頼と、相互の信頼を深め(また、授かる子どもに信仰を伝えて)、神の民に寄与することができましますように。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司 恵み豊かな神よ、

わたしたちの祈りを聞き入れ、

人類の成長のためにあなたがお定めになった結婚を顧みてください。

あなたによって結ばれたきずなを、

いつくしみによって守ってくださいますように。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

または

司 天地の創造主である神よ、

あなたは世の初めに、いのちあるすべてのものを祝福してくださいました。

わたしたちの祈りに耳を傾け、

〇〇〇〇と〇〇〇〇を豊かな祝福で満たしてください。

二人が心を一つにし、互いに受け入れ合い、固く結ばれますように。

一同
アーメン。
聖霊せいれいの交わりまじの中で、あなたとともになか世々よよに生き、支配しはいしておられる御子おんこ、
わたしたちの主しゅイエス・キリストによって。

ことばの典礼

60

ことばの典礼は通常のミサと同じように行う。

三つの聖書朗読を用いることができる。その場合、第一朗読は旧約聖書から選ぶが、復活節には黙示録から選ぶ。少なくとも一つの朗読は、つねに結婚に直接ふれるものを選ぶ。

以下に、救いの秘義の中で結婚の意義と尊さをよく表している朗読箇所箇所の例を二つ示す。その他の朗読箇所については付録一（137ページ以下）を参照。

61

答唱詩編は朗読された箇所を詩編のことばによって黙想し、味わうためのものである。一同で歌うことが望ましいが、詩編を朗唱することもできる。事情によっては、オルガン演奏、あるいは沈黙の時間などを設けて、一同が聖書のことばを味わうように配慮する。

アレルヤ唱は歌わない場合は省くことができる。四句節にはアレルヤをひかえ、詠唱を歌う。

創世記

神は言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

神は御自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。

答唱詩編(詩編128・1、2、3、5、6a)
典礼聖歌103「しあわせな人(2)」を歌うことができる。

しあわせな人、神をおそれ、主の道を歩む者。
額に汗してかてを受け、恵みと平和に満たされる。
実り豊かなぶどうの木のように、妻は家庭を潤す。
オリーブの若木のように、子どもたちは食卓を囲む。
神の祝福がシオンから臨み、いのちのある限り、数多くの子孫の群れを見る。

第二朗読(エフェソ5・2a、25-32)

使徒パウロのエフェソの教会への手紙

「兄弟たち、」キリストがわたしたちを愛して、御自分をわたしたちのために献げ
てくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。

夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、
妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教

アレルヤ唱(詠唱)

会かいを清きよめて聖せいなるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何なに一つない、聖せいなる、
 汚けがれのない、栄光えいこうに輝かがく教きょう会かいを御ご自じ分ぶんの前まえに立たたせるためでした。そのように夫おつとも、
 自じ分ぶんの体からだのように妻つまを愛あいさなくてはなりません。妻つまを愛あいする人ひとは、自じ分ぶん自じ身しんを愛あいし
 ているのです。わが身みを憎にくんだ者ものは一人ひとりもおらず、かえって、キリストが教きょう会かいにな
 ったように、わが身みを養やしない、いたわるものです。わたしたちは、キリストの体からだの
 一いち部ぶなのです。「それゆえ、人ひとは父ちちと母ははを離はなれてその妻つまと結むすばれ、二人ふたりは一いっ体たいとな
 る。」この神しん秘ひは偉い大だいです。わたしは、キリストと教きょう会かいについて述のべているのです。

アレルヤ、アレルヤ。

天てんと地ちを造つくられた主しゅが、

あなたがたを祝しゆく福ふくしてくださいますように。

アレルヤ、アレルヤ。

四旬節のとき

わたしたちの助けである神を喜びましょう。
神は愛、わたしたちを愛されたように、わたしたちも互いに愛し合おう。

(二ヨハネ4・16b、12、11参照)

66

福音朗読(マタイ19・31-6)

マタイによる福音

〔そのとき、〕ファリサイ派の人々が近寄り、イエスを試そうとして、「何か理由があれば、夫が妻を離縁することは、律法に適合しているでしょうか」と言った。イエスはお答えになった。「あなたたちは読んだことがないのか。創造主は初めから人を男と女とお造りになった。」そして、こうも言われた。「それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから、二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」

使徒パウロのフィリピの教会への手紙

〔兄弟たち、〕主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによつて守るでしょう。

終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

答唱詩編(詩編112・1、2 a + 3 b、4、6 + 9 b)
典礼聖歌99「しあわせな人」を歌うことができる。

しあわせな人、神をおそれ、そのおきてを喜びとする人。

その子らは地において強くなり、彼らはとこしえに恵まれる。

光はやみの中に輝き、神に従う人を照らす。

神に従う人はとこしえにゆるぎなく、その思い出はいつまでも続く。

アレルヤ唱(詠唱)

アレルヤ、アレルヤ。

愛にとどまる人は神のうちにとどまり、

神もその人のうちにとどまる。

アレルヤ、アレルヤ。

四句節のとき

神は愛。互いに愛し合おう。神が愛したように。

(一ヨハネ4・8 b + 11)

(一ヨハネ4・16 b)

ヨハネによる福音

「そのとき、イエスは弟子たちに仰せになった。」
 「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行なうならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

71

福音朗読の後、司祭は聖書のテーマに基づいて説教し、キリスト教における結婚の秘義、夫婦愛の尊さ、秘跡の恵み、夫婦の務めについて説明する。その際、列席者を考慮に入れ、朗読された聖書の意味が信者でない人にも理解できるように努める。

結婚の儀

72

新郎新婦と証人が起立する。司祭は新郎新婦に、たとえば次のようなことばを述べる。新郎新婦のいずれか一方だけが信者の場合は、131(103ページ)を参照。

司

○○○○さん、○○○○さん、お二人はここに集うわたしたちの前で、結婚の意志を聖なるしるしによって固めていただくためにおいでになりました。キリストはお二人に豊かな祝福をお与えになり、いつまでも互いに忠実を守り、夫婦としての務めを果たしていくことができるようにしてくださいます。またキリストは、ご自分

結婚の意志の確認

がすでに洗礼せんれいによって聖なる者せいものとされたお二人ふたりに、結婚けっこんの秘跡ひせきによってさらに恵みめぐみを与えあた、強めてつよくださいます。

次に司祭は、二人が自らすすんで結婚するのか、相互に忠実を守るつもりであるのか、子どもを授かって育てていく意志があるのかどうかを、たとえば次のようなことばでたずねる。

第一形式

司 〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、お二人ふたりは自らみずかすすんで、この結婚けっこんを望のぞんでいますか。

新婦新婦 はい、望のぞんでいます。

司 結婚生活けっこんせいを送るおくにあたり、互たがいに愛あいし合い、尊敬そんけいし合う決意けついをもっていますか。

新婦新婦 はい、もっています。

第二形式

新婦 司
○○○○さん、○○○○さん、お二人はいまからわたしたち一同の前で結婚の誓約をなさるのですが、あなたがたは互いに愛と忠実をもって、生涯この誓約を守り育てていく決意をもっていますか。
新郎 はい、もっています。

次の質問は、たとえば二人が高齢である場合のように事情によっては省くことができる。新郎新婦のいずれか一方だけが信者の場合は132(105ページ)を参照。

新婦 司
お二人の家庭に恵まれる子どもを神からの恵みとして心から受け入れ、キリストとその教会の教えに従って育てますか。
新郎 はい、育てます。

司祭は新郎新婦に結婚の同意を表明するよう勧める。

司
それでは、神とわたしたち一同の前で結婚の誓約をかわしてください。

同意の表明には次の三つの形式があるが、新郎新婦が自分たちのことばで誓約をかわすことができるようにすることが望ましい。またこのとき、二人は右手を取り合うこともできる。

第一形式

新郎新婦はそれぞれ次のことばを述べる。

新郎
○○○○さん、わたしはあなたを妻として迎えます。

喜び、悲しみ、苦しみをともにし、

夫として生涯、あなたを愛し敬うことを誓います。

新婦
○○○○さん、わたしはあなたを夫として迎えます。

喜び、悲しみ、苦しみをともにし、

妻^{つま}として生涯^{しょうがい}、あなたを愛^{あい}し敬^{うやま}うことを誓^{ちか}います。

第二形式

新郎新婦は司祭の質問にそれぞれ答えた後、ともに誓約のことばを述べる。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○さんを妻^{つま}としますか。

新郎 はい、いたします。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○さんを夫^{おとこ}としますか。

新婦 はい、いたします。

司 それでは一緒に^{いっしょ}、誓^{ちか}いを立^たててください。

新婦 わたしたちは夫婦^{ふうふ}として、

順境^{じゆんきやう}にあつても逆境^{ぎやうきやう}にあつても、病氣^{びやうき}のときも健康^{けんこう}のときも、
生涯^{しょうがい}、互^{たが}いに愛^{あい}と忠実^{ちゆうじつ}を尽^つくすことを誓^{ちか}います。

第三形式

司牧上の理由からふさわしいと思われるなら、司祭は質問の形で二人の同意を確かめることができる。司祭は新郎にたずねる。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○○さんを妻つまとすることを望のぞみますか。

新郎 はい、望のぞみます。

司 順境じゆんきやうにあつても逆境ぎやつきやうにあつても、病氣びやうきのときも健康けんこうのときも、
夫おつととして生涯しやうがい、愛あいと忠実ちゆうじつを尽つくくすことを誓ちかいますか。

新郎 はい、誓ちかいます。

続いて司祭は新婦にたずねる。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○○さんを夫おつととすることを望のぞみますか。

新婦 はい、望のぞみます。

司 順境にあつても逆境にあつても、病気のときも健康のときも、
妻として生涯、愛と忠実を尽くすことを誓いますか。
新婦 はい、誓います。

75 結婚成立の宣言

続いて司祭は二人の誓約を確認して次のように言う。

司 わたしは、お二人の結婚が成立したことを宣言いたします。
お二人がいまわたしたち一同の前でかわされた誓約を神が固めてくださり、
祝福で満たしてくださいますように。
神が結ばれたものを人が分けることはできません。

または

司 わたしは、お二人の結婚が成立したことを宣言いたします。

お二人が教会の前で表明されたこの同意を、

いのちの与え主である神が、キリストのうちに固め、
祝福してくださいますように。

76 指輪の祝福

指輪の交換は夫婦相互のきずなを示すためのものである。ただし、場合によっては省くことができる。

司祭はたとえば次のような導入のことは述べた後、次の三つの祈りのうちいずれかを用いて指輪を祝福する。

司 教会は、キリストの名によつてこの指輪を祝福します。

司 神よ、この指輪を **✠** 祝福してください。

これを身につける者が互いに忠実を守り、

あなたの平和とみ旨のうちにとどまり、

つねに互いの愛をはぐくむことができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
神よ、

○○○○と○○○○を愛のうちに
✠ 祝福し、清めてください。

二人の忠実のしるしであるこの指輪が、

互いの愛をいつも思い起こさせるものとなりますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
相互の愛と忠実のしるしとして互いに与え合うこの指輪を、

神が
✠ 祝福してくださいますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

祝福の祈りの後、聖水を用いることもできる。

77
指輪の贈呈

新郎は新婦の薬指に指輪をはめる。同様に新婦は新郎の薬指に指輪をはめる。そのとき、次のようなことばを言うことができる。

新婦
この指輪は、わたしたちの愛と忠実のしるしです。

または

新婦
○○○○さん、この指輪を、わたしの愛と忠実のしるしとして受けてください。

78
続いて一同は賛歌、あるいは賛美の歌を歌うことができる。

79
署名

ここで結婚証書に署名を行うことができる。しかし、結婚式の中心はことばによる同意の表明であるから、署名に時間をかけすぎたり、式全体の構成をこわすことがないように注意する。
署名は祭壇の上では行わない。

80

共同祈願

続いて通常どおり共同祈願が唱えられる。

共同祈願の前文、意向、後文は状況に応じて自由に作ることが望ましいが、付録三(148ページ以下)にあげるものの中から、ふさわしいものを選ぶこともできる。

一同の答えの部分は、共同祈願に慣れていない列席者を考慮して、沈黙の祈りに代えることもできる。

81

典礼注記が定めているなら、続いて信仰宣言を唱える。

感謝の典礼

82

奉納の歌と奉納行列

続いて奉納の歌が歌われる。

新郎新婦がパンとぶどう酒を祭壇まで運ぶことができる。

83

パンを供える祈り

奉納の歌が歌われない場合、司祭は次の祈りを唱えることができる。

司 神よ、あなたは万物の造り主、ここに供えるパンはあなたからいただいたもの、
大地の恵み、労働の実り、わたしたちのいのちの糧となるものです。
一同 神よ、あなたは万物の造り主。

84 ぶどう酒の準備

助祭または司祭は沈黙のうちに祈る。

この水とぶどう酒の神秘によってわたしたちが、
人となられたかたの神性にあずかることができますように。

85 カリスを供える祈り

奉納の歌が歌われない場合、司祭は次の祈りを唱えることができる。

司 神よ、あなたは万物の造り主、ここに供えるぶどう酒はあなたからいただいたもの、
大地の実り、労働の実り、わたしたちのいのちの糧となるものです。
一同 神よ、あなたは万物の造り主。

86

奉納の祈り

それから司祭は沈黙のうちに祈る。

神よ、悔い改めるわたしたちを

きょうみころろにかなういけにえとして受け入れてください。

87

清め

司祭は手を洗い、沈黙のうちに祈る。

神よ、わたしの汚れを洗い、罪から清めてください。

88

祈りへの招き

司祭は次のようなことばで一同を祈りに招く。

司
皆さん、このささげものを、全能の、神である父が受け入れてくださるよう祈り
ましよう。

一同はしばらく沈黙のうちに祈る。

続いて司祭は次のいずれかの奉納祈願を唱える。

司 いくくしみ深い神よ、

今日結婚した二人の上に恵みを願ってささげる

この供えものをお受けください。

あなたによって結ばれた二人を、生涯導いてくださいますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

または

司 いくくしみ深い神よ、

このよき日に喜びをもつてささげる供えものを受け入れ、

秘跡によって結ばれた二人を、あなたの愛のうちにお守りください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

または

司 いくくしみ深い神よ、

今日結婚した二人の上に恵みを願ってささげる

この供えものを快くお受けください。

いま祝う過越の神秘によって、

二人が相互の愛とあなたに対する愛に固められますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

奉献文 — 感謝の祈り —

90 叙唱前句

司 主は皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

司 心をこめて神を仰ぎ、

一同 賛美と感謝をささげましょう。

91 叙唱

司祭は次の(一)から(三)の叙唱の中からふさわしいものを選んで唱える。

(一) 結婚のきずなの尊さ

司 聖なる父、全能永遠の神、

いづどこでもあなたに感謝をささげることが、

まことに尊い大切な務め(です)。

あなたは聖なる結婚が豊かな実りをもたらすために、

結婚の契約を、

解くことのできないものとしてくださいました。

あなたははかりしれない恵みを注いで家庭を祝福し、

主・キリストによつて教会を發展させてくださいます。
わたしたちはすべての天使、聖人とともに、
終わりになく賛美の歌をささげます。

(二) 結婚は偉大な秘跡

司
聖なる父、全能永遠の神、

この喜びの日、あなたをたたえ、感謝の祈りをささげます。

あなたは御子の死と復活によつて民をあがない、

新しい契約を結んであなたのいのちにあずからせ、

この恵みを豊かに注ぐ秘跡によつて

二人があなたの愛のしるしとなるよう祝福してくださいます。

わたしたちはすべての天使、聖人とともに栄光をたたえ、

終わりになくほめ歌います。

(三) 結婚は神からの愛のしるし

司
聖なる父、全能永遠の神、

この喜びの日、あなたをたたえ、感謝の祈りをささげます。

あなたは限りないいつくしみにより、

ご自分の姿に似せて人を造り、

愛のうちに造られたものが愛に生き、

永遠の愛にあずかるよう招かれ、

信仰のうちに結ばれる二人が、

神の愛を映す者となるようお定めになりました。

あなたの恵みをたたえる天使、聖人とともに、

わたしたちも感謝の賛歌をささげます。

92 感謝の賛歌

先唱 聖なるかな、

一同 聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

天のいと高きところにホザンナ。

ほむべきかな、主の名によりて来るもの。

天のいと高きところにホザンナ。

93 司祭は奉献文を唱える。以下に第二奉献文と第三奉献文をあげてある。

司 まことにとうとくすべての聖性の

源である父よ、

いま聖霊によってこの供えものをと

うといものにしてください。

わたしたちのために主イエス・キリ

ストの御からだと  御血になりま

すように。

司 まことに聖なる父よ、

造られたものはすべて、あなたをほ

めたたえています。

御子わたしたちの主イエス・キリス

トを通して、聖霊の力強い働きによ

り、すべてにいのちを与え、とうと

いものにし、絶えず人々をあなたの

民としてお集めになるからです。

日の出る所から日の沈む所まで、あ

なたに清いささげものが供えられる

ために。

あなたにささげるこの供えものを、

主イエスはすすんで受難に向かう前に、パンを取り、感謝をささげ、割って弟子に与えて仰せになりました。「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡される、わたしのからだ(である)。」

聖霊によつてとうといものにしてください。
御子わたしたちの主イエス・キリストの御からだと  御血になりますように。
主のことばに従つていま、わたしたちはこの神秘を祝います。

主イエスは渡される夜、パンを取り、あなたに感謝をささげて祝福し、割って弟子に与えて仰せになりました。「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだ(である)。」

食事しょくじの終おわりに同おなじように杯さかすきを取とり、感謝かんしゃをささげ、弟子でしに与あたえて仰おほせになりました。

「皆みな、これを受けて飲のみなさい。

これはわたしの血ちの杯さかすき、あなたがたと多くおほの人のためひとに流ながされて、罪つみのゆるしとなる新あたらしい永遠えいえんの契約けいやくの血ち（である）。

これをわたしの記念きねんとして行おこないなさい。」

司 同
信仰しんこうの神秘しんぴ。

主しゅの死しを思おもい、復活ふっかつをたたえよう、主しゅが来こられるまで。

食事しょくじの終おわりに同おなじように杯さかすきを取とり、あなたに感謝かんしゃをささげて祝福しゅくふくし、弟子でしに与あたえて仰おほせになりました。

「皆みな、これを受けて飲のみなさい。

これはわたしの血ちの杯さかすき、あなたがたと多くおほの人のためひとに流ながされて、罪つみのゆるしとなる新あたらしい永遠えいえんの契約けいやくの血ち（である）。

これをわたしの記念きねんとして行おこないなさい。」

司 同
信仰しんこうの神秘しんぴ。

主しゅの死しを思おもい、復活ふっかつをたたえよう、主しゅが来こられるまで。

または

一同 主の死を仰ぎ、復活をたたえ、告げ知らせよう、主が来られるまで。

司 わたしたちはいま、主イエスの死と

復活の記念を行い、ここであなたに奉仕できることを感謝し、いのちのパンと救いの杯をささげます。

キリストの御からだと御血にともにあずかるわたしたちが、聖霊によって一つに結ばれますように。

または

一同 主の死を仰ぎ、復活をたたえ、告げ知らせよう、主が来られるまで。

司 わたしたちはいま、御子キリストの

救いをもたらす受難・復活・昇天を記念し、その再臨を待ち望み、いのちに満ちたこのとうといいけにえを感謝してささげます。

あなたの教会のささげものを顧み、み旨にかなうまことのいけにえとして認め、受け入れてください。

世界に広がるあなたの教会を思い
起こし、わたしたちの教父○○○○
世、わたしたちの司教○○○○(姓
名、すべての教役者をはじめ、全教
会を愛の完成に導いてください。

御子キリストの御からだと御血によ
ってわたしたちが養われ、その聖霊
に満たされて、キリストのうちにあ
って一つのからだ、一つの心となり
ますように。

聖霊によってわたしたちがあなたに
ささげられた永遠の供えものとなり、
選ばれた人々、神の母おとめマリア
をはじめ、使徒と殉教者、(聖○○
○○、(その日の聖人または保護の聖人の名)
すべての聖人とともに神の国を継ぎ、
その取り次ぎによって絶えず助けら
れますように。

わたしたちの罪のゆるしとなるこの
いけにえが、全世界の平和と救いの
ためになりますように。

地上を旅するあなたの教会、わたし
たちの教父○○○○世、わたしたち
の司教○○○○(姓名)、司教団とす
べての教役者、あなたの民となった
すべての人の信仰と愛を強めてくだ
さい。

あなたがここにお集めになったこの
家族の願いを聞き入れてください。
いつくしみ深い父よ、あなたの子が
どこにいても、すべてあなたのもと
に呼び寄せてください。

今日、結婚に導かれた○○○○と○○○を思い起こし、あなたの恵みによって、いつまでも愛し合い、互いに平和を保つことができるようにしてください。

また、復活の希望をもって眠りについたわたしたちの兄弟とすべての死者を心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。

なお、わたしたちをあわれみ、神の母おとめマリアと使徒をはじめ、すべての時代の聖人とともに、永遠のいのちにあずからせてください。
御子イエス・キリストを通して、あ

結婚の日を迎える幸せに導いてくださった二人を、恵みのうちに強め、み前で結んだ契りをいつも誠実に生きぬくことができるようお守りください。

亡くなったわたしたちの兄弟、み旨に従って生活し、いまはこの世を去ったすべての人をあなたの国に受け入れてください。

わたしたちもいつかその国で、いつまでもともにあなたの栄光にあずかり、喜びに満たされますように。
主・キリストを通して、あなたはすべてのよいものを世にお与えになり

なたをほめたたえることができます
ように。

ます。

96 栄唱

司 キリストによってキリストとともにキリストのうちに、
 聖^{せい}霊^{れい}の交^{まじ}わりの中^{なか}で、全^{ぜん}能^{のう}の神^{かみ}、父^{ちち}であるあなたに、
 す^すべての誉^{ほま}れと栄^{えい}光^{こう}は、世^よ々^よに至^{いた}るまで、
 一^{いっ}同^{どう}
 ア^あー^あメ^めン。

交^{まじ}わり^の儀^ぎ

97 主^{しゅ}の祈^{いのち}り

司祭はたとえば次のようなことばで一同を「主の祈り」に招く。

司 主しゅの教おしえを守まもり、みことばに従したがい、つつしんで主しゅの祈いのりを唱となえましょう。

または

司 キリストをとおして示しめされた神かみの愛あいをたたえ、つつしんで主しゅの祈いのりを唱となえましょう。

一同 天てんにましますわれらの父ちちよ、

願ねがわくはみ名なのとうとまれんことを。

み国くにの来きたらんことを。

み旨むねの天てんに行いわるるごとく地ちにも行いわれんことを。

われらの日にち用の糧かてを今日こんにちわれらに与あたえたまえ。

われらが人ひとにゆるすごとくわれらの罪つみをゆるしたまえ。

われらを試こころみに引ひきたまわされ、

われらを悪あくより救すくいたまえ。

または

一同

天てんの父ちちよ、

み名なが尊とまれますように。

み国くにが来きますように。

み旨むねが天てんと同おなじく地ちでも行おこなわれますように。

わたしたちの日ひごとの糧かてをきようお与あたえください。

わたしたちが人ひとをゆるすように、

わたしたちの罪つみをおゆるしくください。

わたしたちを誘惑ゆうわくに陥おちいらせず、

悪あくからお救すくいください。

98

結婚の祝福

「主の祈り」の後、司祭は副文を省き、新郎新婦のほうを向いて立ち、二人の上に神の祝福を求める。どのような場合もこの祝福を省くことはできない。

新郎新婦の一方あるいは二人ともが聖体を拝領しないなら、招きのことばの（ ）の部分を省く。

祈りの最後の部分で、たとえば新郎新婦が高齢の場合のように、状況からいってふさわしいと思われるなら、（ ）の部分の部分を省くことができる。

新郎新婦は祭壇に近づき、その場でひざまずくか合掌して軽く頭を下げる。

司祭は手を合わせて、一同を祈りに招く。他の形式は付録二(141ページ以下)を参照。

司

ご列席の皆さん、キリストのうちに一つに結ばれたお二人の上に、豊かな恵みを求め、神がお二人を(キリストの御からだと御血の秘跡によって)愛のうちに一つの心としてくださるよう祈りましょう。

一同はしばらく沈黙のうちに祈る。

続いて司祭は両手を新郎新婦の上に差し伸べて祈りを続ける。

司

神よ、あなたはみ手の力によって、すべてを無からお造りになり、

すべてのものの始まりを整え、人をご自分の似姿としてお造りになりました。

また、男女がもはや別々ではなく一体となるようお定めになり、

神が結ばれたものを、人が引き離すことはできないと教えてくださいました。

神よ、あなたはすばらしい秘義によって夫婦のきずなを聖なるものとされ、

キリストと教会を結ぶ秘義を、結婚のきずなのうちに示してくださいます。

天地万物の造り主である神よ、

あなたは夫婦のきずなを祝福し、

人があなたに背いた後も、変わることはない恵みを注いでおられます。

○○○○と○○○○が互いに信頼を深め、

いのちの恵みとともに受け継ぐものであることを理解し、

キリストを通して示された神の愛を生きるものとなりますように。

神よ、わたしたちはいま、心をこめて祈ります。

二人があなたの教えを守り、

キリスト者の生活の生きた模範となりますように。

神の福音に導かれて、

すべての人にとって、キリストのよいあかしとなりますように。

(子どもに恵まれ、よい親となることができますように。)

すべての聖人とともに、永遠のいのちの喜びを分かち合うことができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

101 平和のあいさつ

「主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました……」を省き、ただちに、「主の平和がいつも皆さんとともに」に入り、新郎新婦と一同は互いに平和のあいさつをかわす。

司 主の平和がいつも皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

司 互いに平和のあいさつをかわしましょう。

102 パンの分割

司祭は沈黙のうちに祈る。

今ここにひとつとなる主イエス・キリストのからだと血によって、
わたしたちが永遠のいのちに導かれますように。

先唱
神かみの小こ羊ひつじ、

一同
世よの罪つみを除のぞきたもう主しゅよ、われらをあわれみたまえ。

先唱
神かみの小こ羊ひつじ、

一同
世よの罪つみを除のぞきたもう主しゅよ、われらをあわれみたまえ。

先唱
神かみの小こ羊ひつじ、

一同
世よの罪つみを除のぞきたもう主しゅよ、われらに平安へいあんをあたえたまえ。

104 拝領前の祈り

司祭は手を合わせて沈黙のうちに祈る。

神かみの子こ、イエス・キリスト、

あなたは父ちちのみこころに従したがい、聖せい霊れいに支ささえられ、

死しを通とおして世よにいのちをお与あたえになりました。

この神しん聖せいなからだと血ちによつてすべての罪つみと悪あくから解放かいほうされ、

あなたのことばをいつも守まもり、

あなたから離はなれることのないようにしてください。

または

主イエス・キリスト、

あなたのからだと血をいただくことによつて裁きを受けることなく、
かえつてあなたのいつくしみにより心もからだも強められますように。

105 拝領前の信仰告白

司 神の小羊の食卓に招かれた者は幸い。

一同 主よ、あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、
あなたをおいてだれのところに行きましよう。

106 司祭の拝領

司祭は沈黙のうちに祈る。

キリストのからだは永遠のいのちの糧になりますように。

キリストの血が永遠のいのちの糧になりますように。

107 信者の拝領

新郎新婦とその両親、証人、親族は、両形態の拝領をすることが望ましい。

司 キリストのからだ。

拝領者 アーメン。

108 拝領の歌

拝領の間に拝領の歌を歌う。オルガン演奏、あるいは沈黙に代えることもできる。

109 拝領祈願

司 ……祈りましょう。(沈黙)

続いて司祭は次のいずれかの拝領祈願を唱える。

司 全能の神よ、

いま受けた秘跡の恵みを、二人の上に豊かに注いでください。

神聖なきずなで結ばれ、一つのパン、一つの杯にあずかった二人が、相互の愛によって一つの心となりますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
全能の神よ、

主の食卓でいのちの糧を受けたわたしたちの祈りを聞き入れてください。

結婚の秘跡(または結婚のきずな)によって結ばれた二人が、

いつもあなたの愛に支えられ、

人々に信仰の喜びを伝えることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同
アーメン。

または

司
全能ぜんのうの神かみよ、

いただいた秘跡ひせきの恵めぐみをこのしもべたちのうちに豊ゆたかに実みのらせ、
キリストのからだに養やしなわれたわたしたちに、
救すくいの力ちからをお与あたえください。

わたしたちの主しゅイエス・キリストによって。

一同
アーメン。

閉祭

110

ミサの終わりに、司祭は次の(一)から(四)のいずれかの祈りを用いて新郎新婦と一同を祝福する。(一)のことは状況によって省くことができる。(四)は新郎新婦が信者の場合に用いる。

(二)

司 永遠えいえんの神かみである父ちちが、相互そうごの愛あいによって結むすばれた二人ふたりを守まもってください、その家庭かていがいつもキリストの平和へいわで満みたされますように。

一同 アーメン。

司 二人ふたりが(子どもこにも恵めぐまれ、)よい友ともを得えて、すべての人ひととまことの平和へいわを分わかち合あうことができませんように。

一同 アーメン。

司 社会しゃかいにあつては神かみの愛あいをあかしする者ものとなり、苦しむ人々ひとびとの友ともとなることができま
すように。

一同 アーメン。

司 全能ぜんんのうの神かみ、父ちちと子こと聖霊せいれいの祝しゆく福ふくが  皆みなさんの上うへにありますように。

一同 アーメン。

(二)

司 全能の神である父が、ご自分の喜びを二人に与え、その家庭を祝福で満たしてください。

一同 アーメン。

司 神の御ひとり子が、順境においても逆境においてもあたたかく二人を助けてくださいますように。

一同 アーメン。

司 聖なる霊が、神の愛をいつも二人の心に注いでくださいますように。

一同 アーメン。

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が ✠ 皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

(三)

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が ✠ 皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

司 かつてカナで行われた結婚式においてになった主イエスが、二人を祝福して下さいますように。

一同 アーメン。

司 教会を深く愛して下さるキリストが、その愛を二人の心にたえず注いで下さいますように。

一同 アーメン。

司 二人が神の国の完成を待ち望み、主の復活の信仰を喜びのうちにあかしすることができますように。

一同 アーメン。

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が  皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

III 閉祭のあいさつ

司祭は通常どおりミサの閉祭のあいさつをするか、結婚式にふさわしい次のようなことばでミサの終わりを告げる。

司

神かみの祝しゆく福ふくを受うけてめでたく結けつ婚こんされたお二人ふたりが、新あたしい生せい活かつに向むかって出しゆく発ぱついた
します。祝しゆく福ふくのうちにお送おくりしましよう。

新郎新婦は、ふさわしい聖歌あるいはオルガン演奏の中を退堂する。

